

平成28年度6月補正予算のポイント

【6月補正予算編成の基本的な考え方】

当初予算は、知事の改選期であることを考慮して「骨格予算」として編成し、新規性のあるものや政策的な経費の本格的な計上は、6月補正予算で対応する予定でした。

そのような中、平成28年熊本地震が発生したことを踏まえ、いわゆる肉付け予算は、9月補正予算での対応を基本としつつ、必要最小限のものに限って6月補正予算に計上することとし、震災への対応に必要な予算を中心に編成しました。

なお、平成28年5月17日に成立した国の補正予算（第1号）に対応するための事業については、今後、順次予算化をしていきます。

1 補正規模

(1) 平成28年熊本地震への対応分	1, 393.7億円（一般財源97.3億円）
(2) 通常分（肉付け予算分）	464.0億円（一般財源66.2億円）
計	1, 857.8億円

<参考：平成28年熊本地震関係予算>

4月補正予算	366.4億円（専決）
5月補正予算	171.1億円
5月補正予算	62.9億円（専決）
今回補正予算	1, 393.7億円
計	1, 994.1億円

2 補正内容（主なもの）

（単位：百万円）

(1) 平成28年熊本地震への対応分	139, 375
① 被災者の救済、生活支援	26, 650
・ 災害救助事業	等
② 産業復興支援	10, 215
・ 地域企業等事業再開支援補助事業	
・ 「がんばろう！熊本」観光振興事業	
・ 熊本地震被災施設整備等対策事業	等
③ 社会・産業インフラの機能回復	102, 216
・ 県立劇場施設災害復旧費	
・ 震災復旧緊急対策経営体育成支援事業	

- ・ 団体営農地等災害復旧事業費
- ・ 現年発生河川等補助災害復旧費

④ その他 294

- ・ 阿蘇くまもと空港ターミナルビル復旧検討事業
- ・ 危険地区からの移転促進事業

(2) 通常分（肉付け予算分） 46,405

- ・ ヘリコプター機体更新
- ・ 明水園改修費補助
- ・ (新)「ゆうべに」生産拡大事業

【参考1】 財政調整用4基金残高の推移（単位：億円）

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28(6補後)
基金残高	53	53	61	82	86	94	106	117

【参考2】 平成28年度当初予算（骨格）編成後の基金推移（単位：億円）

	H28当初後 残高①	4月補正 取崩し②	5月補正 取崩し③	6月補正 取崩し④	残高 ①-②-③-④
財政調整用4基金	258	0	5	137	117
災害基金	20	18	2		0
災害救助基金	6	6			0

※ 6月補正予算編成後の財政調整用4基金の残高は、117億円となっていますが、今後も必要となる復旧・復興への対応や、9月補正予算以降に予算計上を先送りしている肉付け予算への対応を考慮すると、基金残高を大幅に超える一般財源が必要になることが確実です。

今後、国による必要十分な財政支援が実現すれば、震災からの復旧・復興をはじめとした施策を迅速に進めることが可能となりますが、財政支援の内容次第では、復旧・復興に必要な事業が実施できなくなることが懸念される状況です。

【参考3】

第190回国会 参議院予算委員会（平成28年5月17日）

松村祥史参議院議員質問

安倍内閣総理大臣答弁（抜粋）

「先般、松村議員をはじめ地元の選出の議員の皆様から、是非、特別措置法をというお話を伺いました。やはり、現地の皆さん、あるいはまた首長の皆さんもこれはやはり財政負担で大変なんだろうという御心配があるんだろうと思います。まずは、とにかく躊躇なくしっかりと必要なことを全てやっていただきたいと思います。」

「・・・その上で、個別具体的な被害状況や必要となる復旧事業等の内容を詳細に点検、精査をし、各自治体の財政状況に丁寧に目配りする中で、国庫補助の拡充や強化や、これに伴う地方負担に対する地方財政措置の充実等も含め、さらにどのような対応が必要となるかを検討し、必要な財政支援をしっかりと行って参ります。」

「いずれにいたしましても、今回の震災被害からの復興において必要となる財源、それによって、財政的な処置によって地方自治体がこれはもう立ち行かなくなる、財政上非常に大きなダメージを被るということは絶対にないようにしていきたいと、このように思います。」